栃木の子どもの学ぶ意欲の向上

学ぶ意欲をはぐくむ

改訂版

栃木県総合教育センター　平成２５年３月

今、学ぶ意欲をはぐくむことが求められています！

学力の重要な要素

① 基礎的・基本的な知識・技能の習得
② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等
③ 学習意欲

（中央教育審議会答申　平成 20 年 1 月 17 日）

学ぶ意欲をはぐくむ取組は、しているつもりだけど…

学ぶ意欲ってよく言うけど、どう捉えればいいのかな？

学ぶ意欲って測れるものなの？

学ぶ意欲をはぐくむには、どんなことに取り組めばいいのかな？

学ぶ意欲とは・・・

学習者が意志をもって、自発的に学習活動を求めようとする心の働き です。

次のようなものは、すべて学ぶ意欲と、捉えることができます。

〇学習活動そのものに対する欲求……「学ぶこと自体がおもしろい」「知りたいから学ぶ」

〇自己実現の手段としての欲求……「よい成績を取りたい」「希望する職業に就くために学習する」

つまり、学ぶ意欲には、「学びたい」という気持ちと、「目標を達成するために粘り強く学んでいこう」という気持ちが含まれます。

＊本リーフレットで用いる「学ぶ意欲」は、学校教育法第30条第2項に記載された「主体的に学習に取り組む態度」と、中央教育審議会答申に記載された「学習意欲」と同義です。

学ぶ意欲をはぐくむ４つの視点

1　学ぶ意欲が育つプロセス

2　学ぶ意欲をはぐくむ環境

3　学ぶ意欲をはぐくむ授業

4　学ぶ意欲の把握

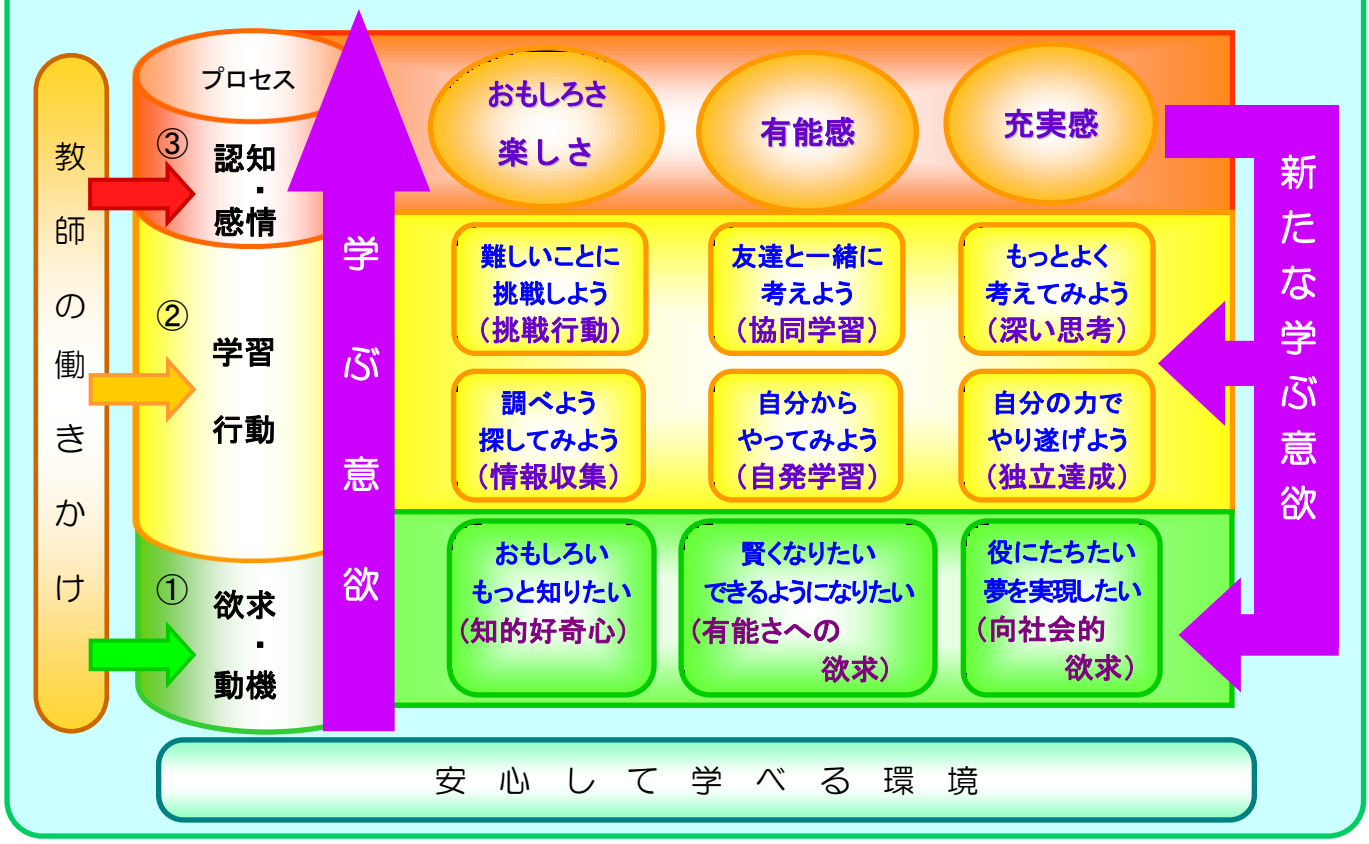
本リーフレットでは、上記のような視点から学ぶ意欲をはぐくむための方策等について考えていきます。
各学校で学ぶ意欲をはぐくむための取組の参考としてご活用ください。

1　学ぶ意欲が育つプロセス

学ぶ意欲のみなもとは、「知的好奇心」「有能さへの欲求」「向社会的欲求」の三つの「欲求・動機」です。
これらの「欲求・動機」は、様々な「学習行動」として表出します。そして、学習の過程で成功を経験すると、「認知・感情」レベルにおいて「おもしろさ・楽しさ」「充実感」「有能感」が得られ、新たな学ぶ意欲が生まれます。学ぶ意欲をはぐくむには、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスにおける教師の意図的な働きかけが重要です。

学ぶ意欲のプロセスモデル

櫻井茂男氏「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」(改)による



【アンケートの質問項目の例】

構成要素	質問項目
おもしろさ・楽しさ	①いろいろなことを学ぶことは楽しい。 ②失敗しても学ぶことはおもしろい。
有能感	①勉強面では友だちからたよられていると思う。 ②自分は勉強ができるほうだと思う。
充実感	①毎日、明るく元気に生活している。 ②毎日の生活が充実していると感じている。
挑戦行動	①今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。 ②むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
協同学習	①授業では友だちと協力して学ぶことも多い。 ②授業では友だちに教えたり、教わったりすることも多い。
深い思考	①もっとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。 ②授業では友だちと話すことで、より深く考えることができる。
情報収集	①興味のあることは調べずにはいられない。 ②分からないことがあると、いろいろな方法で調べている。
自発学習	①テストがあれば、自分で計画をたてて勉強する。 ②自分から勉強に取り組んでいる。
独立達成	①できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている。 ②難しい問題にであっても、簡単には先生や友だちの助けは求めない。
知的好奇心	①よく分からないことは、分かるまで調べたい。 ②疑問やふしぎに思うことは、分かるまで調べたい。
有能さへの欲求	①自分がもっている能力をじゅうぶんに発揮したい。 ②もっとかしこくなりたい。
向社会的欲求	①社会のために役立つような人になりたい。 ②思いやりのある人になりたい。
安心して学べる環境	①授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。 ②先生は学習のことについてほめてくれる。 ③学校では、落ち着いて学習している。　④クラスは発言しやすい雰囲気である。

2　学ぶ意欲をはぐくむ環境

子どもを取り巻く環境には、学習教材などの物的環境と教師や友達などの人的環境があります。中でも、教師は子どもにとって重要な人的環境です。子どもが、「先生は、自分のよいところを見てくれている。温かい目で見守ってくれている。」と思えることが、学ぶ意欲の土台となる安心感につながります。

また、子ども相互の人間関係にも留意して、「安心して学べる環境づくり」を進めていくことも大切です。

安心して学べる環境づくりのポイント

子どもの視点に立ち　子どもを肯定的にみる

子どもの言動の背景には、その子なりの思いや考えがあります。子どもの内面の捉え方が、学習に大きな影響を与えます。

どの子どもも、「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という向上心をもっています。子どもの視点に立ち、内面の理解に努め、子どもの言動を肯定的に受け止めて指導に当たりましょう。

子どもの意思を尊重し　自発性を育てる

授業を進める上で、学習のルールを決めておくことは大変重要です。しかし、ルールや型を強調しすぎると子どもは自ら考えようとしなくなり、学ぶ意欲が低下してしまうことがあります。

「やってみたい」「こう学びたい」などという欲求を大切にし、課題の与え方や授業形態の組合せなどを工夫して、自発的に学ぼうとする雰囲気をつくりましょう。

意図的に働きかけて　一人一人の子どもを生かす

学校生活の様々な場面で、学び合う場や協力し合う場を設定することは、互いに認め合う人間関係を築きやすくします。しかし、ただ設定しただけでは、せっかくの認め合う場が形骸化してしまうおそれがあります。友達のよい考えや長所に気付けるように、教師がサポートすることが重要です。

活動の様子を見守りながら、一人一人の子どもを生かすように、教師が意図的な働きかけをしましょう。

学び続ける姿を通して　学ぶ意義を伝える

教師が学ぶことの楽しさや意義を感じていなければ、それらを子どもに伝えることはできません。教師自身が様々なことに好奇心をもち学び続ける姿は、子どもたちの手本となります。

自らが関心をもっていること、読書や経験から得たこと、そのことについての考えなどを子どもに伝えていきましょう。

「安心して学べる環境」は、本県が推進している「学業指導」の「学びに向かう集団づくり」とほぼ同義で、学力の向上を図る上で基盤となるものです。

【コラム】　効果のある学校

欧米には、教育格差を克服し、子どもの学力を高めることに成功している学校を指す「エフェクティブ・スクール」（「効果のある学校」）という概念があります。これに関して、大阪大学の志水宏吉教授が、児童対象の質問紙調査のデータをもとに分析を行っています。

その結果、「効果のある学校」の子どもたちは、より積極的な学習態度・学習習慣を有しており、教師や周囲の人たちと良好な人間関係を築いていることが分かりました。「学校での生活」に関する三つの質問項目、「先生は私の気持ちを分かってくれている」「先生は私に期待をかけてくれる」「ふだん、学校で先生と話をする」についてみると、「効果のある学校」とそうでない学校の数値には大きな差が見られました。このことからも、教師の子どもへの接し方や期待のかけ方などが、学ぶ意欲や学力の向上に大きく影響を与えていることが分かります。

（参考文献 「学力を育てる」 岩波新書　2005 年　志水宏吉著

参考 URL 「階層差を克服する学校効果」 志水宏吉　http://benesse.jp/berd/center/open/report/kyoiku_kakusa/2008/pdf/data_05.pdf ）

３　学ぶ意欲をはぐくむ授業

子どもの興味・関心、学ぶ理由、目標などは、成長とともに変化していきます。授業する上では、こうした子どもの発達の段階や実態を踏まえて、学ぶ意欲が育つプロセス(P.2 参照)に教師が意図的に働きかけることが大切です。「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」は密接に関わっているため、一つの働きかけが複数の要素に影響を与えることもあります。さらに、教師が子どもの学習の様子を見守りながら、状況に応じて子ども自身による振り返りや教師による言葉かけを工夫することが重要です。

こうした教師の働きかけや言葉かけ、子ども自身の振り返りが学ぶ意欲をはぐくむ上でのカギとなります。

（1）　各プロセスへの働きかけ（例）

学ぶ意欲

認知・感情への働きかけ

学習の成果の確認　（充実感、おもしろさ・楽しさ）
・学習したことを作品、ポートフォリオなどにまとめさせ、学習の振り返りができるようにする。

ポジティブな個人内評価　（有能感）
・教師から作品のよさ、個人内の伸びなどよい面への評価を与えるとともに、自己評価をさせる。

学習行動への働きかけ

応用・発展の課題　（挑戦行動）
・応用・発展の課題を提示し、自分で工夫して学習させる。

学び合い、教え合いの場　（深い思考）
・友達との考えを比較する場を設定し、様々な見方、考え方に気付かせる。

子どもが主体的に学ぶ場　（自発学習、情報収集）
・課題や学習方法を選択させ、次第に自ら課題を見いだせるように指導する。

自己決定・自力解決の場　（独立達成）
・目標を決めさせる。
・みんなで考えたことを元に、自分でまとめさせる。

欲求・動機への働きかけ

自分の特性や長所の自覚　（向社会的欲求）
・様々な体験活動や自己評価・相互評価などを通して、自分の特性やよさに気付かせる。

児童期からのキャリア教育　（向社会的欲求）
・社会で活躍する様々な人に目を向けさせ、夢や目標をもたせる。

めざす姿や作品の提示　（有能さへの欲求）
・作品や演技など、めざす姿や形を例示し、実現のための具体策を考えさせたり、指導したりする。

学習の見通しをもたせる　（有能さへの欲求）
・単元の見通しをもたせて励まし、「自分にもできそうだ。」というイメージを抱かせる。

子どもの生活実態と教材との関連　（知的好奇心）
・子どもの興味や日常生活と教材を関連付ける。

疑問や意外性を生み出すしかけづくり　（知的好奇心）
・「なぜ」「えっ、そうなの」など、疑問や意外性を感じさせる場面を設定する。

（2） 学習状況に応じた振り返り・言葉かけ

振り返り・言葉かけのポイント

子ども自身による振り返り（自己評価）では、適切な目標をもたせること、学習状況を適時に振り返らせることが大切です。このことで、「有能感」や「自分で自分を励ましながら学習する力」を育てることが可能となります。

教師の言葉かけ（教師による他者評価）では、子どもが「有能感」「おもしろさ・楽しさ」「充実感」などを感じられるように、ポジティブな視点での評価を心がけることが大切です。

子ども自身による振り返り

発達の段階を考え 学習の振り返りをさせる

達成度を正確に判断する能力が身に付くのは、小学校高学年ぐらいと考えられます。適切に自己評価したり、目標を設定したりする力を身に付けさせるには、発達の段階に即して、低学年の段階から学習を振り返る経験をさせることが必要です。

自分を励ましながら 学習を進めるように促す

成長するにつれて課題が難しくなるため、自分で自分を励まして学習する力が必要になります。成功したときに自分をほめ、失敗したときに自分を励ます能力*を高めるように支援します。

＊心理学では、この能力を「自己強化」の能力と言います。

振り返りの例

- 「自分で計画し、調べてまとめられた。」
- 「友達に解き方を教えることができた。」
- 「友達の助言を参考に書き直したら、分かりやすい文章になった。」
- 「この部分はできなかったけれど、あと一歩だった。もう一度確認して、次はできるようにしよう。」
- 「難しい問題があったけれど、最後まであきらめずにがんばれた。」

教師による言葉かけ

タイミングよく 具体的な言葉かけをする

有能感を育てるには、他者評価が有効です。特に、幼い時期は、教師の温かい言葉が重要な意味をもちます。子どもの特性や能力、取組の状況、学習のねらいに即し、充実感が得られるように、機会を捉えて具体的な言葉かけをすることが大切です。

子どもなりの発想を認め 知的好奇心をもたせる

子どもは、その子なりの発想をもっています。それが認められることによって、知的好奇心が育ちます。

教師は個性的・多面的な発想を受け止め、認めるように心がけることが大切です。

言葉かけの例

- 「粘り強く取り組んだから、よくまとまったね。」
- 「よく考えたね。この発想は、なかなか思いつかないよ。」
- 「すごいね。あなたは、〇〇が得意なのね。」
- 「グループの話合いで建設的な意見が出せたから、いい作品に仕上がったね。」
- 「この調子で前向きに取り組めば、目標が達成できると思うよ。」

4 学ぶ意欲の把握

学ぶ意欲を高めるための方策や手だてを考える上では、学ぶ意欲の状況を把握していることが必要です。状況を的確に把握することで、授業の改善や個に応じた指導が可能になります。

学ぶ意欲を測定する代表的な方法には、「観察法」「面接法」「質問紙法」があります。授業や単元の展開に応じて、それらの方法を選択したり、組み合せたりして効果的に用いることが大切です。

３つの測定法

【観察法】「自分の力で問題を解こうとしているか」「課題を解決したら、難しい問題に取り組んでいるか」「新しい情報に興味を示しているか」などの観点を意識して、観察することが大切です。

【面接法】教師が必要と思う内容を詳しく調べることができ、家庭における意欲なども含めて、子どもを多面的に捉えることができます。正しい情報を得るためには、信頼関係を築いていることが必要条件となります。

【質問紙法】年間に複数回実施し、個人や学級全体の変容を確認しながら指導に当たることが大切です。

（質問項目は P.2 参照）

学ぶ意欲をはぐくむ　７つのポイント

学ぶ意欲をはぐくむには、学ぶ意欲が育つプロセスに着目することと、子どもの学ぶ意欲の実態を把握することが重要です。学ぶ意欲を測定するアンケートを実施した調査協力校の取組などから、重要であると分かったことを7つのポイントにまとめました。

１　学ぶ意欲の構成要素に着目して、授業改善をする

○学ぶ意欲の構成要素に着目して、授業づくりをしましょう。
○「学習に関するアンケート」で学ぶ意欲を測定して、授業の展開や指導の特徴等を振り返り、授業改善に生かしましょう。
○校内研修で学ぶ意欲をはぐくむための取組について協議して、授業力を高めましょう。

２　人間関係に配慮し、安心して学べる環境をつくる

○教師が子どもの話をよく聴いて受容し、温かく見守りましょう。
○子どもが相互に認め合う人間関係を築けるように、支援しましょう。

３　ねらいやゴールを明確に示し、見通しをもたせる

○学習の進め方の見通しをもち、「自分にもできそうだ」と思えるように、単元の計画や作品例等を示しましょう。
○子どもが達成感を味わえるように、個に応じた課題を段階的に与えましょう。

４　子どもの疑問や予想を大切にして、授業を展開する

○「不思議だ」「やってみたい」と感じられるように、課題の提示を工夫しましょう。
○疑問や予想を基に学習に取り組ませ、気付いたことや分かったことをまとめさせて、実感を伴った理解につなげましょう。

５　多様な学習活動を、意図的・計画的に取り入れる

○教科や単元の特性に応じて、多様な学習活動を取り入れましょう。
(例)本で調べる/一人でじっくり考える/選んだ課題に取り組む/難しい問題に挑戦する/体験を通して学ぶ/友達と学び合って考えを深める

６　振り返りを大切にして、学びのよさを自覚させる

○自分の伸びが自覚できるように、個に応じて言葉かけを工夫しましょう。
○振り返りの仕方について指導し、自己評価の能力を育てましょう。

７　自己を見つめさせ、将来の目標をもてるように指導する

○自分のよさを感じ取れる場を意図的に設定して、自尊感情を高めましょう。
○就きたい職業について考えさせたり、得意なことを伸ばしたりして、将来の目標や夢をもたせましょう。

当センターで作成した学ぶ意欲に関する資料

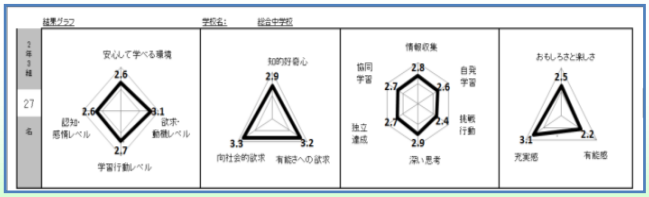
問い合わせ先　研究調査部　TEL028－665－7204

報告書

学ぶ意欲分析ツール

学ぶ意欲分析結果の例

左図の分析ツールに入力すると、学校・学年・学級・個人の集計表とグラフが得られます。



◇本紙と上記の資料は栃木県総合教育センターホームページからダウンロードしてご活用ください。
（http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/manabuiyoku_h22/）